

愛知県経済の現状と見通し<2013年6月>

1. 総括判断

景気の現状	景気は緩やかに持ち直し	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準 評価 (注2)	☀️ ☁️
当面の見通し	持ち直しの動きが持続する見通し		水準 評価 (注2)	☀️ ☁️

2. 個別項目の動向

個人消費	基調判断	持ち直しの動き		
	基調判断の前月との比較	➡️	水準評価	☁️
	<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『管内大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表1)、4月の名古屋市百貨店販売額は、前年比+1.8%と3か月連続の増加。 ○品目別にみると、主力の衣料品(前年比▲0.4%)が3か月ぶりにマイナスとなったものの、飲食料品(同+2.3%)は2か月連続、その他商品(同+6.4%)は14か月連続のプラス。その他商品は株価上昇等を背景とした消費マインドの改善により引き続き貴金属や宝石、腕時計などの高級品が好調となったことが主因。 ○一方、5月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表2)、23,904台・前年比▲9.0%と2か月ぶりの前年比マイナス。 ○車種別にみると、小型車(同▲14.2%)、普通車(同▲8.3%)、軽乗用車(前年比▲4.0%)はエコカー補助金等を背景に大幅増となった反動からマイナス。 <p>《見通し》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5月下旬以降、株価の下落局面が続くなかで、これまでの一本調子の上昇局面のもとで改善してきた消費者マインドへの影響が懸念される。 ○乗用車については、前年比でみるとエコカー補助金等の政策効果により大幅増加がみられた反動によりマイナス基調となっているが、実態ベースでは消費税率引き上げ前の購入需要や新型車投入効果などもあり、販売は堅調に推移する見通し。 			

図表1 名古屋市・百貨店販売額<前年比>

(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売」 (年/月)

◆4月 名古屋市・百貨店販売額
305億円 前年比+1.8%(3か月連続の増加)
・うち衣料品 前年比▲0.4%(3か月ぶりの減少)

図表2 新車乗用車販売台数<前年比>



(資料) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」、 (年/月)

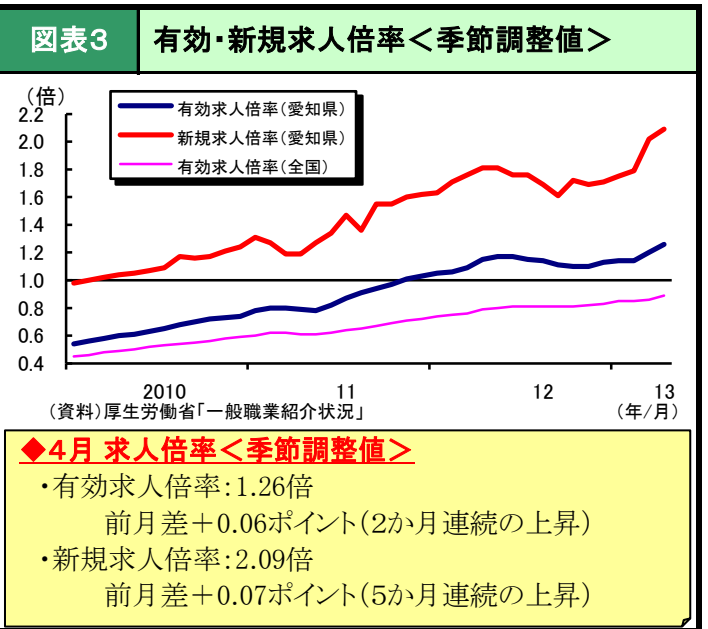
◆5月 新車乗用車販売台数<含む軽>
23,904台 前年比▲9.0%(2か月ぶりの減少)



(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️: 上方修正、➡️: 据え置き、↘️: 下方修正を示す。例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる。したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

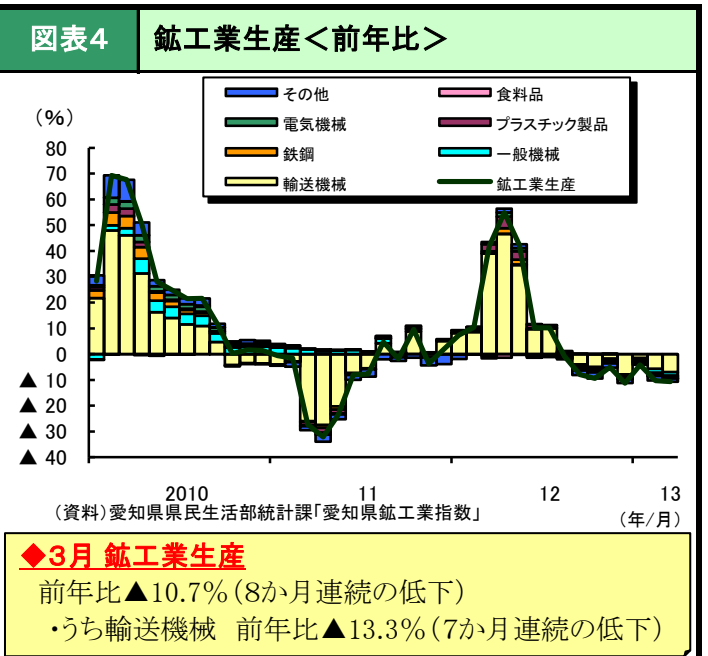
(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀️: 晴、☀️☁️: 晴～曇、☁️: 曇、☁️☔️: 曇～雨、☔️: 雨、を示す。



お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 別府
	電話: 059-354-7102

雇 用 情 勢	基調判断	持ち直し		
	基調判断の前月との比較		水準評価	
	<p>《現状》</p> <p>○4月の求人倍率をみると(図表3)、有効求人倍率(季節調整値)は1.26倍と2か月連続、新規求人倍率(同)は2.09倍と5か月連続で上昇。</p> <p>○愛知県の有効・新規求人倍率はともに全国2位と高いレベルで推移。</p> <p>《見通し》</p> <p>○製造業における生産活動が比較的堅調に推移するなかで、求人動向も好調を維持する見通し。</p>			



企 業 活 動	基調判断	緩やかに持ち直し		
	基調判断の前月との比較		水準評価	
	<p>《現状》</p> <p>○3月の鉱工業生産指数をみると(図表4)、前年比▲10.7%と8か月連続のマイナス。県内の生産動向に大きな影響を与える輸送機械(同▲13.3%)の生産が減少したことが主因。</p> <p>《見通し》</p> <p>○愛知県の鉱工業生産に影響力の大きいトヨタ自動車の国内生産動向をみると8か月連続で前年比マイナスとなったものの、マイナス幅は徐々に縮小基調にあり、生産の実態としては堅調に推移する見通し。</p>			



輸 出	基調判断	緩やかに持ち直し		
	基調判断の前月との比較		水準評価	
	<p>《現状》</p> <p>○4月の名古屋港通関輸出額をみると(図表5)、前年比+10.2%と4か月連続の増加。二桁の伸びは3か月ぶり。</p> <p>○仕向地別にみると、主要地域で軒並み増加し、とりわけ、米国向け(前年比+27.8%)が大幅に伸びたほか、アジア(除く中国)向け(同+11.4%)も二桁の伸び。</p> <p>《見通し》</p> <p>○米国経済の回復を受けて米国向けの輸出は引き続き堅調に推移すると見込まれるものの、一般機械は中部5県主要メーカーの海外受注高(4月:前年比▲19.0%)が2か月連続のマイナスとなるなど、今後の輸出は強弱材料が交錯する状況。</p>			

